

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年6月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2870200694		
法人名	株式会社 ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとび庵神戸・石屋川		
所在地	神戸市灘区記田町1丁目3-7 (電話)078-846-9555		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年6月11日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】 (20年5月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	37773		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤12人, 非常勤12人, 常勤換算16.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (5月14日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	5	要介護2	7		
要介護3	11	要介護4	4		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.1 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	昭生病院、牧野歯科医院、新長田クリニック、荻原みさき病院
---------	------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>緑豊かな公園の多い住宅地にあるグループホームは「よりよい介護」「感動ある介護」の理念を基に、職員は、より具体的な細分化した理念作りに取り組み、地域の中でその人らしい生活が出来るように支援している。施設内は明るく暖かい雰囲気、スタッフ全員がゆったりと利用者一人ひとりのペースに合わせ自然に対応している。利用者に寄り添いながら、誇りを傷つけないように心身ともに自立生活が出来るよう心のこもったケアも目指している。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>昨年の評価結果の改善項目リストを作成して、ミーティングにおいてフロア長と職員が検討し、改善に取り組んでいる。今年度の自己評価は職員の意見を聞きながらホーム長が記入した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>今年度の自己評価は職員の意見を聞きながらホーム長が記入した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議の開催日は年間計画を立てて行われている。メンバーは家族の代表2名・民生委員・知見を有する者として、他のグループホームの職員2名・包括支援センター・利用者2名・行政の職員が参加している。日頃の報告・研修の成果・ヒヤリハットの活用などを報告し、参加者の意見を参考にサービスの向上に努めている。議事録はホームの玄関に掲示している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>家族の面会時に職員から声をかけ意見・要望・苦情が言い易い雰囲気作りをしている。年1回開催している家族会は、家族同士のコミュニケーションの場になっている。運営推進会議の報告・会社からの運営報告・家族との話し合いを行っている。また、苦情に対しては個別に改善結果を報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>自治会の立ち上げに参加し、AED設置による「まちかど救急ステーション」「こども110番」登録など地域へ向けての取り組みを行っている。自治会でも理念を周知徹底しており、安心感があると喜んでもらっている。自治会主催の、近くの公園の草とり行事に参加している。近所の喫茶店に立ち寄り、地域交流の機会としている。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「よりよい介護」「感動のある介護」を理念としている。フロア長・職員は利用者と地域との交流を目指した10の項目を掲げより具体的な理念の検討を行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有は月に1回行われるミーティングで徹底されている。またホーム長・管理者が職員一人一人と向き合って理念の共有が図られている。職員面談で理念の浸透が窺がえた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の立ち上げに参加し、AED設置による「まちかど救急ステーション」「こども110番」登録など地域へ向けての取り組みを行っている。自治会でも理念を周知徹底しており、安心感があると喜んでもらっている。自治会に参加し、近くの公園の草とり行事に参加している。近所の喫茶店に立ち寄り、地域交流の機会としている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果の改善項目リストを作成して、ミーティングにおいてフロア長と職員が検討し、改善に取り組んでいる。今年度の自己評価は職員の意見を聞きながらホーム長が記入した。		自己評価は、現場の意見を出してもらうために、スタッフと共に記入するのが望ましい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の開催日は年間計画を立てて行われている。メンバーは家族の代表2名・民生委員・知見を有する者として、他のグループホームの職員2名・包括支援センター・利用者2名が参加している。日頃の報告・研修の成果・ヒヤリハットの活用などを報告し、参加者の意見を参考にサービスの向上に努めている。議事録はホームの玄関に掲示している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の議事録の報告や介護保険関連の説明会に参加・事故の報告などを行っている。自治会の方に案内を配布しており、個人についても相談を受け付けている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「ゆうとび庵通信」と共に、一人ひとりの近況を手書きの手紙を添えて送付している。通信内容は、普段の暮らしぶりがうかがえ、ほほえましいものとなっている。金銭管理は、立替で毎月の請求書と共に領収書を送付している。高額なものを買う時は了解を得ている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時に職員から声をかけ意見・要望・苦情が言い易い雰囲気作りをしている。年1回開催している家族会は、家族同士のコミュニケーションの場になっている。運営推進会議の報告・会社からの運営報告・家族との話し合いを行っている。また、苦情に対しては個別に改善結果を報告している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所の都合での異動は最小限にしている。利用者の担当スタッフを固定化しなじみの関係を保ち、利用者・家族の不安や不満を聴取しやすい体制をとり異動・離職によるダメージを最小限にする取り組みを行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現任職員には年間研修計画を立て、月に1回実施して働きながらの学ぶ機会を作り、向上心を持って働けるように取り組んでいる。研修ノートを作り、各スタッフが感想や意見を記入している。毎月第4火曜日に消防署で行われるAED研修を職員が交代で参加している。外部研修については、交通費・参加費等全て支援している。公的資格取得の助成も支援している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議にも他のグループホームの職員が参加しており、日常的に連絡を取り合い情報交換を行っている。職員が相互に施設見学の機会を持ち交流を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に利用者宅を訪れ、ホームの日常の様子を写真やパンフレットで紹介している。本人の意向の尊重が困難な場合は家族の意向を聞き、利用者・家族が安心して入居できるよう取り組んでいる。入所前にホーム見学を勧め、一緒に食事をするなど個別対応をしている。入所時は本人の意向をスタッフが理解し、スムーズな利用への支援を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用前の暮らしぶりを把握し、喜怒哀楽を共にしながら、入居者の視点に立った支援を心がけ、共同生活を支えあう関係作りが出来ている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の今までの生活習慣などの把握に努め、日々の生活の中で利用者の思いを受け止め、就寝・起床・食事など、一人ひとりペースに合わせ、その人らしい自立した生活が送れるよう支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族、関係者からの情報収集をもとにアセスメントをし個別具体的な介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回フロア会議の中で介護計画の見直しを行っている。また、本人、家族からの新たな要望があった時、身体的・精神的变化が認められた場合はその都度見直しを行い、その人らしい暮らしが継続できるような臨機応変に介護計画を変更している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族のその時の状況に応じて通院の送迎・付き添いを実施している。また、個別の外出支援（お見舞いなど）を行っている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的に本人・家族が希望する医療機関の受診となっている。グループホームへの往診は、内科・皮膚科・歯科・眼科・泌尿器科などの往診があり、変化がある場合はその都度電話で連絡するようにしている。往診の結果受診が必要となった場合は医師が紹介状を書き、受診医療機関の返事を報告し適切な医療が受けられるよう支援している。常時往診医と連絡を取れる体制も確立できている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、重要事項説明書に記し、入居の際説明同意を受けるようにしている。また、状況の変化に応じて本人や家族、関係機関と繰り返し話し合いを行い共通の認識を持って取り組む姿勢がある。</p>		<p>重度化や看取りについてのマニュアルを作成し、方針や対応についての職員が共通認識を持って支援できる取り組みを期待する。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>スタッフ全員がゆったりとした雰囲気の中で一人ひとりの誇りを傷つけないように自然に対応している。個人情報保護については、フロー毎に話し合いが行われ個人情報保護法の理解に努め個人情報の扱いについては、周知徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースに合わせた時間配分になっている。日々の関わりの中で利用者の意向を知りそのペースに合わせた暮らしを可能な限り支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>カロリー計算や栄養バランスに配慮した献立を利用者と共に料理している。利用者は料理の味見や盛り付け、片付けなどが張り合いや自信、楽しみのひとつとなっている。季節感を取り入れた食事の提供を心掛け実施。また、月に数回、利用者から食べたい物を聞き、好みの食事を作り「お食事会」を開催している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができるようになっている。特に入浴時間の設定はしていないが、概ね午後に行っている。個別入浴、基本的に同性介助とし、羞恥心や恐怖心への配慮がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活背景から体験したことを活かせる様な場面作りをおこなっている。家具の組み立て作業や花壇作り、編み物、洗濯物干しや洗濯物たたみと一人ひとりの役割や楽しみごとを作り出すよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに公園があり季節によっては毎日外出している。地域にある喫茶店へも頻回に行き顔なじみの関係にある。その他、近隣の社会資源を活用し足湯やドライブに出かけ、個別の外出支援も積極的に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、その上で安全確保を考え、外出したい様子の利用者には納得できるまで付き添うなどの支援が行われている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て夜間を想定した訓練も含め、消防訓練を行っている。今後は消火器の作動動作を一緒に行うなど、地域の方々にも訓練に参加して頂けるような働きかけを予定にしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る</p>	<p>きちんとカロリー計算された食事となっており、食事量や水分摂取量は食事報告書で チェックしスタッフ全員が把握できるように している。また、利用者の状態に応じた調理形態として、ミキサー食・キザミ食等、個 別の支援がなされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には大きいソファが置いてあり、懐 かしいBGMが適度な音量で流れている。食事 の後、TVを観たり横になったり、BGMに合わ せて歌を口ずさんだりと居心地のよい空間と なっている。壁にはGH内で行われたお食事会 や外出先の写真が飾られて五感が刺激される よう配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者 や家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのもをを活かして、居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所前に利用者が大切にしていたものや馴染 みのものを居室に置き安心して生活でき、ま た、居心地がいいように過ごせるよう工夫し ている。</p>		

 は、重点項目。